

令和7年度 稲美町ゼロカーボン推進協議会 会議録

会議名称	稲美町ゼロカーボン推進協議会
開催日時	令和8年1月19日(月) 14:00~
開催場所	稲美町役場 301 会議室
出席者	稲美町ゼロカーボン推進協議会委員 9名 同協議会事務局 4名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 自己紹介</li> <li>3 会長及び副会長選任</li> <li>4 議題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 稲美町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の概要について</li> <li>(2) 令和4年度の町域全体の温室効果ガス排出量及び評価指標の報告について</li> </ol> </li> <li>5 意見交換</li> <li>6 閉会</li> </ol>
会議内容	<p>【1~2】 略</p> <p>【3 会長及び副会長選任】 稲美町ゼロカーボン推進協議会設置要綱第5条第2項の規定により、会長を委員の互選により選任し、副会長を会長の指名により選任した。</p> <p>【4 議題】 (1) 稲美町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の概要について &lt;資料に沿って事務局から説明&gt; 会 長: そうしましたら、いまの説明に、委員の皆さんから質問をお受けしたいと思いません。 委 員: 将来像の計画の目標、2030年度の目標(中期)が48%削減となっていますが、この48%の中に再生可能エネルギーは入っているのでしょうか。 事務局: 入っています。 委 員: 電力に対するCO2排出係数ですが、これはいくらで見ているのでしょうか。私が排出係数を見た時に、私が調べた平成18年レベルであれば、Kg-CO2あたり0.45でしたが換算すると計算が合いません。どのレベルを使っているのでしょうか。 事務局: 数値は後ほど回答します。 会 長: ありがとうございます。実行計画作っただけの前提は計画の45ページにあります。将来の電力排出係数は分からないものですので、国の目標値ですが、これをキロ</p>

グラムにすると 0.253。

事務局：会長が仰るように、調べましたところ、2030 年度の排出係数となっています。

会 長：そうですね。ですので、これ自体も関西電力全体でいろんな再生可能エネルギーが入ってきているということに加えて、稲美町でさらに対策を追加していくということですね。

委 員：分かりました。

会 長：排出係数は毎年変わるものですので、逆に言うとそれで排出量が上下してしまうことがあります。

会 長：他よろしいでしょうか。

<意見や質問なし>

そうしましたら次の項目に移りたいと思います。

(2) 令和 4 年度の町域全体の温室効果ガス排出量及び評価指標の報告について

<資料に沿って事務局から説明>

会 長：私から確認させていただきます。訂正が 4 ヶ所とのことでした。産業部門の基準年度、合計の基準年度、産業部門の基準年度比、合計の基準年度比の訂正がありました。それを受けて、2 枚目の基準年度比 55%減などももう少し大きくなるのかと思います。6 枚目のグラフも連動して直していただかないと最終版にならないと思います。

事務局：大変失礼しました。修正いたします。

会 長：お願いします。

委 員：二酸化炭素の排出量について、家庭部門が増えた要因として世帯数が増えたと説明でしたが、他の部門に関して、補足で説明いただけませんか。

事務局：環境省が発表している自治体別の排出量カルテの数値がこちらに使われており、その数値の詳細は分かりかねる部分があります。

委 員：多分、産業部門はどの企業も削減のために動いているので、減っていく数値が出ているのでしょうか。廃棄物も皆さん減らそうとしているので減っていると思いきや、増えていますね。

事務局：廃棄物分野に関しては、ごみの量は減っていますが、プラスチックの割合や合成繊維の割合で決まってきます。ごみ量と比例するものではないといったところです。

委 員：カロリーの関係でしょうかね。

事務局：プラスチックの燃焼で二酸化炭素が排出されるというところです。

会 長：県や政令市みたいにゼロカーボン担当者が潤沢ではないので、環境省のいろんな統計から市町村に分解して一律に出してくれているデータを使いながらではありませんけども。産業部門は大きな企業含めて二酸化炭素を減らす取組みが着実に進んでいる一方で、業務その他部門はコロナ禍からの回復が進んでおり、全国的に

も増加傾向ではあると思いますが、家庭はむしろ減りそうな気がします。

世帯数だけが原因で 20%も排出量が増えているのは説明つかないので、電力排出係数なども含めて、さらに要因を分解する必要があるかと思います。私も相談に乗りますので、検討してもらえればと思います。

会 長：廃棄物については生ごみなども燃焼すれば二酸化炭素は出ますが、その二酸化炭素は野菜など、元々空気中から光合成などで蓄えたものですので、相殺してゼロになるということです。そのため、人工的な石油由来のものだけ廃棄物の排出量になっていくわけで、どうしても組成に影響されます。住民さんには分別をしっかりする啓発が非常に大事かと思われま。

副会長：プラスチックは稲美町では燃えるごみになっています。いつからでしたでしょうか。

事務局：広域のごみ処理施設の時からです。広域ごみ処理施設ではプラスチックなどの燃焼で得られた熱で発電をしている、いわゆるサーマルリサイクルをしています。

会 長：広域ごみ処理施設で発電された電力はバイオマス扱いとして削減量に入っているのでしょうか。

事務局：ごみ発電で得られた電力はカウントされていません。今後、地域新電力で公共施設で使用されるようになれば、カウントされます。

会 長：聞いていると、全部の公共施設ですぐには切り替わらないみたいですね。負荷率で計算して徐々に切り替えていくみたいのようで、一斉には難しいらしいです。

委 員：評価指数のごみの排出量の部分ですが、実績が 769 グラムとあり、実数と指数の差に疑問があります。ごみを焼却する施設を建設するときは、1 日 1 人あたり 1 キログラムから 800 グラムの間でごみのキャパシティを決めています。ごみが多ければ多いほど裕福な生活になるため、この数字だと稲美町はあまりお金持ちではないように思えます。実績数は本当に 2013 年から 2020 年の間に削減されたデータなのでしょうか。

事務局：実際の実績値です。燃えるごみに限らず、資源ごみや粗大ごみなども含めて、この数字になっています。

委 員：分かりました。ごみの発生量が少ないように思い、疑問に思いました。

会 長：全国や県の平均から見ても違和感はないように思います。2000 年から日本のごみ排出量は減っています。また、広域ごみ処理施設を建てる時に、通常は各市町でごみの総量を人口で予測して建てていると思います。

副会長：稲美町は農地持っている人が多く、生ごみや食品残渣を肥料として使っていることが多いです。

副会長：省エネの評価指数について、冷蔵庫やエアコンなどの省エネ家電に対する補助金制度をしていましたが、この指数には入っていないのですか。

事務局：令和 5 年度に実施しており、この指数には反映されていません。

副会長：もう補助金はやらないのですか。

事務局：今のところ予定はありません。

会 長：省エネについて申し上げますと、「うちエコキッズ」という子ども向けの簡易版のうちエコ診断のサイトがあります。無料で簡単に使っていただけますので、ぜひどこかでPRできればと思います。

会 長：電気自動車の補助件数は稲美町が補助された件数ですか。

事務局：仰る通りです。

会 長：他の市町では自動車税のデータにより、軽自動車は車種名で判断しては分かりますが、普通車は県でしか分からないようです。機会があれば、兵庫県に市町ごとで分類して出すことはできないか問い合わせてみたいと思います。

会 長：再生可能エネルギーについては、広域ごみ処理施設での地域新電力が適切に反映されるように、整理して欲しいと思います。

会 長：啓発広報については目標指数に届くかというのは別にして、一定評価したいと思います。特に、地球温暖化防止講演会は今年度は390人の参加ということで、非常に大盛況だったようで、このような啓発をしていただくのは素晴らしいと思います。

会 長：他にご意見よろしいでしょうか。この協議会は評価だけでなく要望や提言なども役割としてあります。ぜひ私がいま申し上げたことも活用していただきたいと思います。

#### 【5 意見交換】

会 長：最後の議題の意見交換ということで、できるだけ皆さまにご発言いただきたいと思います。事務局から意見交換の説明をお願いします。

事務局：失礼します。意見交換の目的としまして、カーボンニュートラルに関する課題を把握しまして、課題解決に向けた方法を討論することにより、カーボンニュートラルの実現に向けた前進を図ることとしております。そのため、この意見交換では事業者さんやご自身で取り組まれておりますゼロカーボンにつながる取組みなどの話、また、その取組みや事業の中でのカーボンニュートラルの実現に際しての課題や課題解決に向けた提案がありましたら、合わせてお話いただければと思います。また、ご自身のこと以外でもカーボンニュートラルに関する全体的なお話、提案等をいただいても構いません。身近なことや小さなことでも構いませんので、積極的なご発言をお願いします。

会 長：ありがとうございます。そうしましたら、委員の皆さんから一言でもご意見いただければと思います。名簿順でご発言をお願いできればと思います。

委 員：弊社のゼロカーボンロードマップのお話をさせていただければと思います。

<委員から持ち込み資料の配付>

委 員：エネルギーを安定供給していく責務を果たしながら、2022年に策定したゼロカーボンロードマップに基づいて、我々も取組みを推進しています。

3 ページがゼロカーボンロードマップの全体像ですけれども、事業活動による CO2 排出量をゼロとすることを目標としており、その具体的な取組みが中段から下段にある「達成に向けた道筋」として記載しています。ひとつはグループの取組みとして、再生可能エネルギーの主力電源化や、既存の原子力発電所の安定運転、それから運用の高度化、また、火力はたくさん CO2 を出してしまうので、水素であったりアンモニアであったり、CCUS を研究開発しながら火力のゼロカーボン化に取り組んでいます。さらに、水素は燃やしても CO2 は出ませんので、水素の供給に取り組んでいます。以上が事業活動におけるゼロカーボン化ですけれども、もうひとつは、我々エネルギーを供給していますので、お客様と社会の皆様と一緒に取り組んでいくということで、省エネ、オール電化などの社会全体の CO2 排出量の削減に取り組んでいます。このような組み立てで現在ゼロカーボンに向けた取組みを進めています。

次に、4 ページの中期目標の 2030 年度の削減目標につきましては、下の事業活動における部分は、2030 年度までにスコープ 1・2 ということで、事業活動における温室効果ガスの削減量を 70%を削減、それからスコープ 1・2・3 ということで、サプライチェーン含めて 50%の削減を目指します。このような目標をベースにしなが、スコープ 4 では、弊社の電気をお客様に還元していくということで、各種サービスを通じながら 700 万 t 以上の温室効果ガスの削減に取り組んでいきたいと思ひます。冒頭にありました排出係数についても、トップランナー水準に向けた取組みを進めています。

次に 6 ページ目ですが、お客様と社会の皆さまと取り組む 4 つのアプローチとして、ひとつは省エネです。省エネ機器の導入であったり、省エネ機器を導入した後に、最適制御をすることでよりエネルギー消費量を減らすようなサービスを提供しています。

それから次に電化ですね、化石燃料を使う機器から CO2 排出量の少ない電気機器に置き換えていただくサービスを提供しています。

それから創エネ、こちらは太陽光パネルや蓄電池も合わせて、自分の電気は自分で作るといった自家消費に向けたサービスを提供しています。

最後は、切り替えられない分については CO2 フリーの電気料金メニューとして、稲美町さんも導入していただけてますけれども、環境価値のある電力を販売させていただきます。

この 4 つの視点に立った形でサービスを提供しています。

後のそれ以降については、業務その他部門や産業部門、家庭分野に対する具体的なサービス内容となり、営業になってしまうので、お目通しをいただければと思ひます。

以上のような商品やサービスを提供しながら社会全体の CO2 削減に向けた取組みを進めています。

会 長：次の委員、お願いします。

委 員：弊社として、ゼロカーボンに向けて取り組んでいることとしては、省エネであったり、太陽光発電設備の導入や、メリットがあることをまず始めに取り組んでいます。また、太陽光発電につきましては、折半屋根や投資回収ができるような取り組みやすい方法で取り組んでおり、どうしても防水シートが敷設されている屋根だと採算が取れないので残っていきます。今後もっと安くて薄い太陽光パネルができるまで、待った方がいいのかもしれないというもあり、なかなか導入できない部分があります。その辺が課題となっていると思います。

また、森林とかJ-クレジットで売れるようなものが森林吸収になるかもしれませんが、そのような知識があまりありませんので、太陽光発電以外でも削減取組として企業で取り組んでいきやすいことがあれば教えていただきたいと思いました。

会 長：具体的な情報が欲しいということで課題をいただきました。それでは次の委員お願いします。

委 員：当社の取組みなんですけども、スコープ1・2・3とありまして、今のところスコープ1では省エネ活動として、できるだけ電力や燃料を使わないというところを重点的に活動しています。基準年度の2010年度の排出量に比べると、昨年度は約35%のCO2の削減実績があります。本当に従業員の地道な、家庭でもやっているような必要のないときに電気をこまめに消すなどの取組みをしています。

設備に関しても、待機電力ですね、稼働していない機械の電気を消すといったことをしています。

それから弊社のグループの話になりますが、事業内容の再編として、製品を作っていく機種によって製造場所をまとめるということで、今まで稲美町の工場で製造していた中大型機を茨城県の工場で、小型機を稲美町で作っていくということで、製造する場所を固めて、運搬の無駄をなくすということでやっています。スコープ3ですかね、運搬にかかる燃料費を削減していく取組みを進めています。

以上が当社の取組みとなります。

会 長：ありがとうございます。それでは次の委員お願いします。

委 員：弊社ではCO2排出量の50%が電気で、残りの50%が都市ガスとなっていますが、電気は再生可能エネルギーや非化石証書の電力を使うことで、2030年までにCO2フリーを実現させる予定にしていますが、問題は都市ガスであって、大阪ガスでは、メタネーションなどの技術があるんですけども、市販化されていないんですね。目標の実現に向けて、電気の方は問題ありませんが、都市ガスの方が課題としてあります。以上です。

会 長：ありがとうございます。次の委員お願いします。

委 員：農業関係から説明すると、肥料と農薬の改良を環境改善への取組みとして努力しないといけないと思うんですが、取組みを進めている一方で、どうしても生産量

の話ですね、経済と環境で相反する部分があるんですが、営農組合として取り組んでいるのが、田植えの時に化学肥料なしで水稻栽培をする「ヘアリーベッチ栽培」という、秋に種まきをしたヘアリーベッチを鋤き込んで稲を育てる水稻栽培の取組みをしています。ヘアリーベッチ栽培米、お聞きされた方いらっしゃいますか。

委員：私、食べています。

委員：ありがとうございます。JAのカントリーにいれると、個別のお米を食べることはできないので、精米をどこかでしないといけない宿題はありますが、自分で食べる分には食べることはできます。そして、実はこの取組み自体には補助金がついているんです。栽培面積が増えたので、当時より6割5分ほどの年間補助金の金額が下がりつつありますが、取組みをしていかないといけないと考えています。

会長：兵庫県の高温に強いお米、あれはどんな感じでしょうか。

委員：今年度の栽培はきぬひかりという品種を植えていたエリアを中心に種を配付していました。280ヘクタールほどあるのですが、来年度には「コ・ノ・ホ・シ」という品種の種を希望者に渡されるようです。

会長：ありがとうございます。次の委員をお願いします。

副会長：稲美町には兵庫県地球温暖化防止活動推進員4名います、4名で「いなみエコチャレンジ」として普段は住民向けに温暖化防止に向けた啓発活動をしています。草の根的な活動しかできませんけども、生活環境課と連携しながら活動しています。やっていることとしましては、生ごみを少しでも減らせるようにダンボールコンポストづくりですね。この辺は指標にカウントしてもらっても良いと思います。出前講座として昔はやっていたのですが、今はないです。住民向けの出前講座として啓発活動の中で大事ですので、カウントに入れていただきながら、積極的に実施してほしいと思います。また、小学生向けにエコ工作教室、エコクッキング教室、環境人形寸劇、環境紙芝居などを出向いて行っています。それと、年に1回、地球温暖化防止セミナーを開いています。こちらもカウントしていただいてもいいのではないのでしょうか。プラスチック包装問題やこの週末にも親子で楽しくエコクッキング教室を開いたりしていますので、そのような小さな取組みですけどもやっています。環境審議会や計画などにもメンバーにいらしていただき、住民目線での意見を反映させていただいています。要望としては出前講座をもう少し頑張ってもらいたいと思います。

会長：ありがとうございます。次の委員をお願いします。

委員：先ほどの委員と同じ所属ですのでやっていることは同じなんですけど、私自身としては、ダンボールコンポストをグループでやっていますが、高齢化してしまっていて、しんどいとの思いで、ちょっと減ってきたかなと思います。今はどうでしょうか。ダンボールコンポストの資材はもらいにきていますか？（事務局うなずく）それなら、やっていることはやっているのじゃないでしょうか。個人的には、以前は良く出前

講座に講師として行かせてもらっていましたが、今はなくなってしまっています。それから、高齢になると冷暖房ですね。冷房付けなくて扇風機だけで良かったのですが、今はやっぱり冷房を使うようになりました。これだけ暑くなると扇風機だけでは難しいなと思います。冬は逆に暖かくなりましたので、暖房使っていませんね。だから年齢と共に、それから温暖化の関係で、なかなか省エネというのは難しいかなと。電気を消すなどの取組みはやっています。

会 長：冷暖房の話ですが、命に関わる話ですので、エアコン中心に冷房を適切に使っていただくのは大事だと思います。太陽光発電を設置している人だと、昼間に電気が作られていますので、割とその電力をエアコンの使用にも充てられていると思います。健康で快適に過ごすために、太陽光発電や断熱改修などを行うと、冬も快適になります。そういう流れに持っていきたいなと思います。多分ほとんどの人は環境のためではなく、自分の健康のために動くと思います。ありがとうございます。それでは次の委員をお願いします。

委 員：節電しかないのかなと思います、あとは将来的には関西電力さんの水素、これをなんとか車に採用したいと思います。車から排出されるガソリンに対するCO<sub>2</sub>の削減ですね。電力ももちろんですが、一般的にすぐに採用できるのは、車から排出されるCO<sub>2</sub>を削減する方法かなと思います。

会 長：ありがとうございました。皆さん方から貴重な詳しい情報や、難しい課題、計画の指標などについての話をいただきました。実は国立大学法人でも実行計画に相当する管理報告書の作成が義務付けられておまして、先ほどのような温室効果ガスの排出量を把握して、評価するというをやられています、我々の大学法人ではそこまでいってなくて、逆に私から県通じて大学そのものを変えていくということをやっているところです。それから、昨年度は稲美町の実行計画に携わらせていただき、今年度は他自治体の実行計画に携わらせていただきました。やっぱり2030年はいいいんですけども、2050年に向けてどうやってゼロにしていくなかというところですね。森林吸収量とか計算されているのですが、樹種とか樹齢を考えて、本当にそこまで吸収しているのか、科学的にも詰めないといけないのかなと思います。そういうわけでも再エネや高砂のバイオマス電力など論点が尽きないところですし、会前半のCO<sub>2</sub>がなぜ増えているのか減っているのかといったところですね、これは他の統計と組み合わせで分析する手立てがありますので、出来る限りお手伝いしながら、ゼロカーボンを着実に進めていけるように引き続き委員にはご協力お願いできればと思います。

今日は全体的に非常に貴重な意見を聞くことができました。ありがとうございました。終わりの時間も近付いてまいりましたので、意見交換を終了させていただければと思います。意見交換の内容について、事務局から連絡事項があればお願いします。

事務局：皆さま貴重なご意見ありがとうございました。今回頂きました意見を取りまと

め、役場組織である推進部会、推進本部に報告を行ってまいります。また、本日の協議内容を議事録としてまとめ、委員の皆さまに送付するとともに、稲美町ホームページにも掲載いたします。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

会 長：議事録は委員の名前など載りますでしょうか。

事務局：計画策定時には委員の名前が計画書には載っており、計画書は町のホームページに載っているので、既に間接的には公開されています。

会 長：他の市町だと、委員長だけ委員長となっていて、他は委員とだけ表示されているケースがあります。どちらが正解というのはありませんので、他の審議会などに合わせてもらえればと思います。

事務局：確認いたします。

会 長：他に何かご意見ありますでしょうか。

委 員：要綱の施行日ですが、公布の日から施行とありますが具体的にはいつからなんでしょうか。

会 長：既に施行されているはずですね。

事務局：既に施行されていますが、確認します。

※公布日：令和7年10月1日

会 長：他にご意見ありますでしょうか。

他にないようですので、これでゼロカーボン推進協議会を終了いたします。

議題は終了しましたので、進行を事務局へお返しします。

事務局：会長ありがとうございました。それでは、最後に閉会のあいさつを副会長からお願いします。

<副会長あいさつ>

【6 閉会】